

# 「青年部・女性部主張発表大会香川県代表者を紹介します」

青年部活動に参加して

## 青年部と自分をwin-winの関係にする

三豊市商工会青年部 矢野 太一



入部5年目に青年部の常任委員になったことから、私の考え

方は大きく変わりました。青年部活動に携わることが増え、先輩ともよく話すようになり、ある日「青年部活動が自分の仕事にどう活かせるのか?」「今の自分で経営が出来るのか?」等の疑問や不安をぶつけました。

先輩の「青年部で勉強会をやったらどうか?」の答えをきっかけに、常任委員会を経て、若手後継者のための勉強会を開く運びとなったのです。財務諸表に対する勉強不足や不慣れな銀行対応について同じ悩みを持つ仲間に対して、講師には元銀行員の部員を起用し、用語の意味から教えてもらう講座をスタートさせました。

次第に、部員からも講座形式やテーマについて提案が増え、回を重ねることとなり、この勉強会は



「後継者育成支援事業」として青年部の継続事業になりました。商工会青年部宣言に、「何人にも侵されない自立した経営を確立し」とありますが、事業家としての知識の一端を、青年部事業から学ぶことができ、素晴らしい仲間との出会いを得て、そこから家業の拡大・雇用の増大へと繋がって、地域に少なからず貢献できるようになりました。

仲間がいてくれたから私は青年部とwin-winの関係を築くことができたのです。

女性部活動に参加して

## まちあるき事業で地域に貢献

三豊市商工会女性部 青井 和代



「三豊の魅力を発信」を合言葉に始まった私たちのまちあるき事業

「七福求めて ぶら〜り みとよ」も、今年で10年目を迎えました。この間に作り上げたまちあるきコースは、計45コース、延べ参加人数は2,100人に達しました。

回を重ねるごとに知名度も上がり、今では地域住民や県内外のまちあるき愛好者にもすっかり定着しています。

この事業は、特別な補助を受けておらず独自の自立した女性部活動で、この活動に対して、全国連から「全国まちづくり顕彰」という名誉ある賞をいただいた折には、部員全員、大変感激いたしました。私たちは、「知らない人に三豊の魅力を伝える」「ストーリー性を持たせて聞く人を飽きさせない」ことを重点に取り組み、そのためにまず自分たちが地元を一層よく知り、愛することが大切だと実感しまし



た。新しい発見が得られる参加者、訪問客を受け入れるお店、主催する私たち女性部員の、3者全てがハッピーになり、元気をもらえる魅力的なこのまちあるき事業を通して、三豊市商工会女性部は、これからも団結力と活力ある女性部として、地域に貢献して参りたいと思います。